

## 理事長あいさつ

いわゆる「社会福祉法人の内部留保問題」は、その後「社会福祉法人の在り方等に関する検討」へとつながり、現在では「社会福祉法人制度改革」「社会福祉法等の改正」へと、大きく確実な流れとなっています。

この中で「基本的な視点」として挙げられているのは、「公益性・非営利性の徹底」、「国民に対する説明責任」、「地域社会への貢献」の3つです。

至極もっともな視点であると同時に、ともすれば当たり前になり、認識が薄れる恐れがある内容かも知れません。

私たち社会福祉法人は、大きな転換点に立たされていると感じます。

多くの社会福祉法人が、強い必然と志によって立ち上がり、地域福祉の一端を担ってきました。時は流れ、福祉制度が整備され、多くの税金が社会保障費として使われる時代となりました。制度にあるサービスを、制度の通りに運営すること、これだけをまじめにやっていたら良い。そんな思いになっていないか、と自らに問うことが必要なのではないでしょうか。

運営の透明性は確保されているか。十分な情報公開を行っているか。また、公のお金で運営している自覚を持った支出管理、経営管理体制の強化。そして地域には、様々な課題があり、社会福祉法人だからこそやれること、やるべきことがある。

これらを改めて問い直し、法人として次のステップを上る努力をしていきたい、地域社会にとって必要な法人であり続けるための取り組みを重ねていきたいと思えます。

理事長 本間 英典

Vol.  
18

理事長あいさつ ..... 1

平成26年度 事業報告 ..... 2~3

平成27年度 事業計画 ..... 4~5

各施設の近況 ..... 6~12

# 平成26年度 事業報告

## I 法人本部

第1期3ヶ年計画の最終年となった本年。その取り組みを総括すると共に、次期3年間の第2期3ヶ年計画を法人全体で作成、取りまとめた。

新たな事業としては、戸田川グリーンヴィレッジの通所生活介護（通称：木の香、定員10名）の開設、「NPO法人まちかどサポートセンター」との共同運営による港区障害者基幹相談支援センターの開設（名古屋市の委託事業）があった。

人材育成においては、平成25年度からの新しい給与体系に連動した人事考課制度の運用を開始し、法人が求める職員像や施設や職種に求められる職務を明確化し、職員の目指すベクトルを示すと共に、人事考課の公平性、納得性を高めた。また年度末には、この人事考課と連動した昇格、昇進の仕組みの運用も始めた。併せて、法人全体の研修体系の整理、構築にも着手した。

今年度から新会計基準へと移行。これを契機に税理士事務所とも契約し、随時経理処理の確認を受けることにより、その適切性は向上したと思われる。併せてクラウドを使用した新しいシステムも導入。リアルタイムで全拠点の経理処理状況が把握できるようになった。

課題となっている老朽化した建物の修繕、建て替え等に対応すべく、1年間で生み出された収益を法人として集め、建設資金として積み立てる取り組みを始めた。併せて中長期の施設建替計画の作成が求められている。

平成28年には法人創立70周年が迫っているため、記念事業委員会を発足、その企画の検討を開始した。

今後も、更に「法人」としての取り組みに期待されるものは大きく、それに答えられるよう尽力したい。

## II 光和寮 拠点

光和寮拠点における各事業の利用稼働率は、入所支援事

業を除き目標とした80%を超えることができた。ガイドネットあいさぽーとは月平均350時間を越え目標を大きく上回り、光和障害者相談センターの利用契約者数も460名にのぼり、名古屋市における相談支援実績に大きく貢献している。就労継続事業印刷科の品質の向上と生産工程の改善、入所支援事業の稼働率アップと空室の有効利用、看護師が安定的に配置できなかったことなど課題も残ったが、全体としてプラスの収支とすることができた。

実習や見学依頼は100%受入れることができた。職員企画、寮友会行事、親和会行事などの企画の実行、夏祭りや地域フェスティバルなど地域向け行事の開催、町内会公園清掃や自転車整理活動などへの継続的参加、自立支援協議会などの地域における福祉ネットワークへの参画など、利用者のQOL向上と地域との繋がりを大切に事業を行うことができた。

拠点内における体系的な職員育成計画の構築までには至らなかったが、各事業における専門的課題を明確にしつつ、外部講師を招いての精神障害、発達障害の研修会、就労事業工賃アップ研修などを実施した。

引き続き各事業の活性化を図り、一人ひとりの利用者支援を充実向上させ、地域における包括的な障害者支援体制の中核となるよう努めていく。

## III 明和寮 拠点

明和寮拠点においては、就労継続支援事業B型の利用率の改善、放課後等デイサービス・生活介護事業・就労移行支援事業の好調持続等、全体としてはほぼ順調に推移した。また、「特定非営利活動法人まちかどサポートセンター」と共同運営を開始した基幹相談支援センターや相談員を増員し強化を図った明和寮の相談支援事業も活発な活動となった。

活動スペースが限界に近い放課後等デイサービスの事業展開について具体的な計画づくりに着手したが、次年度中の実現に向けて活動していく。

施設整備については、作業棟エアコンの更新、訓練室の改

社会福祉法人名古屋ライトハウス 法人合計 貸借対照表

第3号の1様式

平成27年 3月31日現在

(単位:円)

	資産の部			負債の部			
	当年度末	前年度末	増減	当年度末	前年度末	増減	
流動資産	1,459,412,498	2,038,412,020	△ 578,999,522	流動負債	254,869,550	225,733,788	29,135,762
現金預金	902,183,734	951,944,514	△ 49,760,780	事業未払金	132,017,110	137,052,198	△ 5,035,088
有価証券	12,849,466	578,769,636	△ 565,920,170	その他未払金	2,791,320	4,096,680	△ 1,305,360
事業未収金	460,388,576	444,193,052	16,195,524	1年以内返済予定設備資金借入金	31,690,000	31,690,000	0
受取手形	32,411,628	14,978,305	17,433,323	1年以内返済予定長期運営資金借入金	5,000,000	5,000,000	0
貯蔵品	7,270,122	7,763,096	△ 492,974	預り金	234,657	4,346,436	△ 4,111,779
商品・製品	1,372,646	676,850	695,796	職員預り金	5,242,343	5,242,343	0
原材料	27,970,172	32,206,889	△ 4,236,717	前受金	111,120	88,872	22,248
立替金	8,644,232	834,746	7,809,486	賞与引当金	77,783,000	80,149,602	△ 2,366,602
前払金	5,430,938	7,044,932	△ 1,613,994				
前払費用	890,984	890,984	0				
固定資産	3,389,028,196	2,782,918,340	606,109,856	固定負債	662,364,141	739,496,711	△ 77,132,570
基本財産	1,915,900,791	2,009,744,329	△ 93,843,538	設備資金借入金	388,474,000	458,854,000	△ 70,380,000
土地	350,598,000	350,598,000	0	長期運営資金借入金	40,000,000	55,000,000	△ 15,000,000
建物	1,565,302,791	1,659,146,329	△ 93,843,538	退職給付引当金	95,453,915	87,488,921	7,964,994
その他の固定資産	1,473,127,405	773,174,011	699,953,394	長期預り金	99,241,284	99,241,284	0
建物	64,443,791	73,278,434	△ 8,834,643	その他の固定負債	39,194,942	138,153,790	△ 98,958,848
建物附属設備	190,653,516	197,946,182	△ 7,292,666	負債の部合計	917,233,691	965,230,499	△ 47,996,808
構築物	34,934,966	34,921,440	13,526	純資産の部			
機械及び装置	67,535,037	92,282,817	△ 24,747,780	基本金	1,035,936,932	1,035,936,932	0
車両運搬具	12,613,927	21,538,997	△ 8,925,070	第1号基本金	1,035,936,932	1,035,936,932	0
器具及び備品	66,704,407	74,617,923	△ 7,913,516	国庫補助金等特別積立金	926,347,799	890,446,933	35,900,866
ソフトウェア	1,102,071	1,925,294	△ 823,223	その他の積立金	336,144,021	161,945,720	174,198,301
投資有価証券	601,114,044	20,033,783	581,080,261	人件費積立金	13,300,000	13,300,000	0
退職給付引当資産	95,453,915	87,488,921	7,964,994	修繕積立金	69,486,565	75,154,565	△ 5,668,000
人件費積立資産	13,300,000	13,300,000	0	備品等購入積立金	8,265,812	8,265,812	0
修繕積立資産	69,486,565	75,154,565	△ 5,668,000	施設整備等積立金	207,472,061	41,409,550	166,062,511
備品等購入積立資産	8,265,812	8,265,812	0	事業振興積立金	3,000,000	3,000,000	0
施設整備等積立資産	207,472,061	41,409,550	166,062,511	役員功労金積立金	5,103,790	5,103,790	0
事業振興積立資産	3,000,000	3,000,000	0	工賃変動積立金	10,300,000	10,300,000	0
役員功労金積立資産	5,103,790	5,103,790	0	設備等整備積立金	19,215,793	13,515,793	5,700,000
工賃変動積立資産	10,300,000	10,300,000	0	次期繰越活動増減差額	1,632,778,251	1,767,770,276	△ 134,992,025
設備等整備積立資産	19,215,793	13,515,793	5,700,000	(うち当期活動増減差額)	39,206,276	176,812,994	△ 137,606,718
差入保証金	2,380,200	2,380,200	0				
その他の固定資産	47,510	4,826,300	△ 4,778,790	純資産の部合計	3,931,207,003	3,856,099,861	75,107,142
資産の部合計	4,848,440,694	4,821,330,360	27,110,334	負債及び純資産の部合計	4,848,440,694	4,821,330,360	27,110,334

修、ごみ置き場外構工事、車両通行感知システム設置、拠点のサーバー設置、P S M協会の助成による畳ベッド設置等を実施した。建物の屋根・壁面の傷みが目立ってきているため、活動スペースの課題を含めた改修計画づくりに取り組んでいく。

#### IV 港ワークキャンパス 拠点

就労継続支援事業A型では、新規製品の市場投入開始により活性化された一年となった。年度当初は増税前特需の影響などから、既存の大口取引先製品に若干の落ち込みが見えたものの、新規製品はそれを補い余りある結果となった。延長作業等も度々行い、従業員工賃もわずかながら向上することができた。

工場内においては、生産数を増やすためにライン稼働率向上を試みた。上半期は2ライン稼働が80%であったが、下半期には3ライン稼働が80%となる月もあり、生産数の向上が図れた。しかし、まだまだ効率化に向けた取り組みは必要であり、従業員配置の適正化や更なる機械の自動化も必要と、課題は多く残っている。

乾燥蒟蒻加工事業については、約5年に亘った事業であったが、平成27年2月をもって終了。現在は第二工場の新たな活用方法を模索中である。

就労継続支援事業B型では、国・県・市町村の備える備蓄から、一般企業が社員のために備える備蓄・一時的帰宅困難備蓄への傾向が高まり、防災商社からの受注や直接の問合せなど、市場の広がりを実感する年度となった。年間成績は、販売数64万缶、売上1億5千万円となった。賞味期限の関係による5年周期の3年目にあたり、年度初めは売行き動向がつかみ難い傾向にあったが、最終的にはほぼ計画に近い数字で終わることができた。

「かんせい工房」も2年目を迎え利用者も14名となり、B型全体で39名になり定員近くまで増えてきた。下請け作業も食品・菓子・玩具関係を中心に当初の目標は達成し、今後の

利用者獲得・定員増に向けて仕事の幅を広げるために、レトルト機の殺菌性能を利用した加工製品・委託製品・自社製品等を取引会社と検討を進めている。

#### V 緑風 拠点

平成23年の開設から丸4年が経過した。25年度に定員の増員(20名から40名)を果たしてから着実に利用者数を増やしており、現在では42名の方にご利用いただいている。また利用者の増加とともに収支も安定してきている。

昼食の提供ではクックサーブ式から現地調理式に変更し、従来のメニュー選択とともに品質アップに努めている。

#### VI 戸田川グリーンヴィレッジ 拠点

入所者の長期入院や外泊者の影響で入所の稼働率平均は94.5%にとどまったものの生活介護99.7%、短期入所90.0%と好調であった。入所では重症化により2名が病院へ、1名が有料老人ホームへ移行し、比較的自立度の高い3名が新たに入所した。

また、サービスの質の向上のため、今年は満足度調査に変えて第三者評価を法人の中でも初受審し、利用者への聴き取りや無記名での家族・職員アンケートなど外部の評価を受けた。結果は愛知県福祉サービス第三者評価推進センターのホームページに公表されている。

女性介護職の採用は、上半期は厳しい状況が続いたが、下半期には新卒採用等内定が4名あり、学校とのパイプもでき次年度の介護福祉士実習生受け入れにもつながった。職員への研修では、自身の課題と向き合う力を高めていけるよう自己覚知(自己理解)の研修も取り入れた。

#### VII 名古屋盲人情報文化センター

11月後半より12月に衆議院選挙、2月には愛知県知事選挙、平成27年度4月統一地方選挙と立て続けに選挙広報等作成に追われたが、その分を含め今期の収支差額をプラスで終わる

第1号の1様式  
社会福祉法人名古屋ライトハウス 法人会計 資金収支計算書  
(自)平成26年4月1日(至)平成27年3月31日

勘定科目	予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収入				
介護保険事業収入	361,445,000	361,525,677	△ 80,677	
老人福祉事業収入	172,395,000	172,960,994	△ 565,994	
就労支援事業収入	717,102,000	745,029,740	△ 27,927,740	
障害福祉サービス等事業収入	1,498,997,000	1,507,859,311	△ 8,862,311	
視覚障害者情報提供事業収入	172,466,000	175,446,816	△ 2,980,816	
借入金利息補助金収入	5,954,000	5,385,300	568,700	
経常経費寄附金収入	2,525,000	2,556,400	△ 31,400	
受取利息配当金収入	16,024,000	19,102,156	△ 3,078,156	
その他の収入	29,557,500	17,874,446	11,683,054	
事業活動収入計(1)	2,976,465,500	3,007,740,840	△ 31,275,340	
人件費支出	1,542,764,800	1,518,427,674	24,337,126	
事業費支出	326,701,500	324,308,646	2,392,854	
事務費支出	190,163,000	183,090,031	7,072,969	
就労支援事業費支出	703,875,000	716,384,427	△ 12,509,427	
支払利息支出	7,834,000	7,628,324	205,676	
その他の支出	7,545,500	10,068,260	△ 2,522,760	
事業活動支出計(2)	2,778,883,800	2,759,907,362	18,976,438	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	197,581,700	247,833,478	△ 50,251,778	
施設整備等補助金収入	22,254,000	22,080,632	173,368	
固定資産売却収入	1,230,000	2,463,212	△ 1,233,212	
施設整備等収入計(4)	23,484,000	24,543,844	△ 1,059,844	
設備資金借入金元金償還支出	38,126,000	38,690,000	△ 564,000	
固定資産取得支出	49,399,000	37,273,768	12,125,232	
施設整備等支出計(5)	87,525,000	75,963,768	11,561,232	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 16,041,000	△ 31,419,924	△ 15,378,924	
投資有価証券売却収入	249,725,000	259,896,694	△ 10,171,694	
固定資産取得収入	41,191,000	48,083,337	△ 6,892,337	
その他の活動による収入		12,159,703	△ 12,159,703	
その他の活動収入計(7)	290,916,000	320,139,734	△ 29,223,734	
長期運営資金借入金元金償還支出	10,000,000	10,000,000	0	
投資有価証券取得支出	793,152,385	838,981,035	△ 45,828,650	
固定資産支出	157,379,010	226,904,902	△ 69,525,892	
その他の活動による支出		10,938,316	△ 10,938,316	
その他の活動支出計(8)	960,531,395	1,086,824,253	△ 126,292,858	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 669,615,395	△ 766,684,519	97,069,124	
予備費支出(10)	0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 536,074,695	△ 570,270,965	34,196,270	
前期末支払資金残高(12)	1,859,944,095	1,859,944,095	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)	1,323,869,400	1,289,673,130	34,196,270	

第2号の1様式  
社会福祉法人名古屋ライトハウス 法人会計 事業活動計算書  
(自)平成26年4月1日(至)平成27年3月31日

勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
介護保険事業収益	361,525,677	352,275,641	9,250,036
老人福祉事業収益	172,960,994	173,882,263	△ 921,269
就労支援事業収益	745,029,740	725,638,978	19,390,762
障害福祉サービス等事業収益	1,507,859,311	1,397,866,896	109,992,415
視覚障害者情報提供事業収益	175,446,816	172,874,720	2,572,096
経常経費寄附金収益	2,556,400	13,456,530	△ 10,900,130
サービス活動収益計(1)	2,965,378,938	2,835,995,028	129,383,910
人件費	1,527,172,900	1,442,524,561	84,648,339
事業費	324,308,646	327,756,014	△ 3,447,368
事務費	183,090,031	179,108,724	3,981,307
就労支援事業費用	738,234,976	727,295,020	10,939,956
減価償却費	156,498,218	150,767,652	5,730,566
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 70,753,504	△ 62,992,211	△ 7,761,293
徴収不能額		694,495	△ 694,495
徴収不能引当金繰入		△ 590,400	590,400
サービス活動費用計(2)	2,858,521,267	2,764,563,855	93,957,412
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	106,857,671	71,431,173	35,426,498
借入金利息補助金収益	5,385,300	6,021,740	△ 636,440
受取利息配当金収益	19,102,156	9,746,492	9,355,664
投資有価証券売却益	2,732,000	14,577,758	△ 14,577,758
その他のサービス活動外収益	20,915,266	77,137,028	△ 56,221,762
サービス活動外収益計(4)	48,134,716	107,483,018	△ 59,348,302
支払利息	7,628,324	8,695,355	△ 1,067,031
投資有価証券売却損	736,080	736,080	0
その他のサービス活動外費用	11,399,306	11,176,778	222,528
サービス活動外費用計(5)	19,763,704	19,872,133	△ 108,429
サービス活動増減差額(6)=(4)-(5)	28,371,012	87,610,885	△ 59,239,873
経常増減差額(7)=(3)+(6)	135,228,683	159,042,058	△ 23,813,375
施設整備等補助金収益	22,080,632	35,906,632	△ 13,826,000
施設整備等寄附金収益		350,000	△ 350,000
固定資産売却益	414,998	29,999	384,999
その他の特別収益	4,778,790	4,778,790	0
特別収益計(8)	27,274,420	36,286,631	△ 9,012,211
固定資産売却損・処分損	658,218	7,980,696	△ 7,322,478
国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)		△ 1	1
国庫補助金等特別積立金積立額	16,480,632	10,535,000	5,945,632
その他の特別損失	106,157,977	106,157,977	0
特別費用計(9)	123,296,827	18,515,695	104,781,132
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 96,022,407	17,770,936	△ 113,793,343
前期繰越活動増減差額(11)=(7)+(10)	39,206,276	176,812,944	△ 137,606,668
前期繰越活動増減差額(12)	1,767,770,276	1,622,482,876	145,287,400
前期繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,806,976,552	1,799,295,870	7,680,682
基本金取崩額(14)			
その他の積立金取崩額(15)	17,118,400	29,374,406	△ 12,256,006
その他の積立金積立額(16)	191,316,701	60,900,000	130,416,701
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,632,778,251	1,767,770,276	△ 134,992,025

ことができた。懸案だったトイレ改修工事を行い、利用者、ボランティアの方々の利便性が一つ向上できた。また2年に一度の第11回用具展開催に多数の参加をいただき好評であった。今後は新製品の紹介など生活支援のため毎年開催とする。関係機関への日常生活用具や補装具の説明会を複数回開催した。利用方法等を理解いただき、関係機関より利用者へ周知されるよう今後も広報を継続していく。

## Ⅷ 瀬古マザー園 拠点

極めて厳しい経営環境の下で、経営基盤安定化のため収入増加への取り組みを推進してきた結果、「認知症専門ケア加算」や「サービス提供体制加算Ⅰ」の取得など一定の成果をみたものの、収入の大幅な改善までには至らなかった。

今般、(独)福祉医療機構に経営分析をお願いしたところ、全国的にマザー園と同規模の事業所と比較して、特養、ショートステイ、デイサービスのいずれも利用率が平均以下との指摘がなされた。この分析結果を検証中であるが、各事業での利用率の引上げ対策が急務となっている。盲養護については、年間を通じて安定した利用率を維持するとともに、利用者一人ひとりのニーズを把握し様々な社会資源を活用した個別支援の提供に努め、充実した生活を送る支援につなげることができた。

感染症に対しては、過去2年の経験から従来の予防対策を抜本的に見直し、感染源を外部から持ち込ませないきめ細かな対策が功を奏し、冬季の入院による空床が激減するなど稼働率が大幅に改善された。

人材育成については、弁護士を講師に迎え「プライバシー保護に関する研修」を実施するなど、職場内研修の充実にも力を入れるとともに外部研修へも職員を積極的に派遣した。

また、おむつゼロへの取り組みも2年間継続して取り組んできた結果、施設介護の質的転換の必要性への認識が徐々に職員の中に浸透してきた。

施設整備の面では、非常用放送設備が故障したため、9月に緊急更新工事を実施した。また平成会館2階空調設備の更新工事を当初の計画通り10月に実施するとともに、老朽化したエレベーター2基の改修工事を10月から11月にかけて行った。

園内の環境整備についても、樹木の定期剪定や四季折々の植栽などほぼ年間計画に沿って実施することができた。

# 平成27年度 事業計画

## Ⅰ. 法人本部

社会保障審議会が「社会福祉法人制度改革について」をとりまとめた。理事会・評議員会を始めとする組織の在り方、情報開示や会計監査人による監査の実施、役員報酬や関係者への利益供与、地域における公益的な活動の責務、内部留保の再投下など多くのことが述べられている。

社会福祉法人に改革が迫られる今だからこそ、法人を「強く」していく必要がある。

そのために、これまで以上に人材の育成に取り組むと共に、建物の更新計画などの中長期のビジョンを描き、「法人」としての機能を着実に強化していく。同時に、地域における公益的な活動にも積極的に取り組み、発信していく。

## Ⅱ. 光和寮 拠点

第2期3ヶ年計画の初年度にあたり、以下の観点から光和寮拠点の活性化を図る。

### ①利用者が必要とされる光和寮

各事業の利用稼働率90%以上、あいさぽーとの活動時間月平均350時間を目標に、利用者の福祉ニーズにマッチした専門性ある支援を提供する。同時に内部・外部研修の充実により職員の資質向上を図る。

### ②地域に貢献する光和寮

引き続き、地域行事や自立支援協議会等、地域ネットワークへ積極的に参画し地域課題の解決に貢献するとともに、地域における光和寮の存在価値を高める。また、「視覚障害者支援室(仮称)」を光和寮の一部署として設け、地域の視覚障害者ニーズに応えていく。

### ③デイ棟建替により新しく発展する光和寮

法人本部と共にデイ棟建て替えによる既存事業のリニューアルと新規事業について会議体を組織し夢のある事業展開を検討していく。

## Ⅲ. 明和寮 拠点

「地域の有益な福祉資源」を目指す拠点の第2期3ヶ年計画の初年度として、拠点全体で下記の視点を共有し、活動の統一性を高めるとともに活性化を図る。

①地域・事業でより必要なサービスの創出・拡充

②拠点内外のネットワーク構築と活動

③専門性だけでなく組織的活動ができる人材の育成

また、老朽化が進む建物・設備に対する具体的な対応策の検討をしていく。

## Ⅳ. 港ワークキャンパス 拠点

日本経済の景気の波に加え、競合企業との熾烈な戦いに挑みながら就労継続支援事業(A・B型)を安定的に維持・運営していくためには、老朽化した機器を整備し、職員の専門性(製造技術、営業力など)を高めていくことが3ヶ年計画の最優先事項となってくる。

新商品の開発や専門知識向上のための研修、企業訪問や見学に加え、共に事業展開を考えてくれるパートナーづくりなど、人脈ネットワークを構築し、活用していく必要がある。また、社会貢献事業を実施しつつも通常事業にリンクさせ繋げていけるような構図(仕掛け)を描き、より効率的・効果的な策を展開していくことが必要となる。

## Ⅴ. 緑風 拠点

今年度で開設5年目を迎える。障害種別の割合は、身体35%、知的47%、精神18%であり、知的及び精神の方の増加傾向が進んでいる。

一拠点として三障害をどこまでカバーできるかが課題だが、障害種別によるサービス提供の偏りがないように努め、役割分担を明確にしてそれぞれに丁寧な支援ができるよう心がけ、臨機応変な就労支援、“あなたらしい働き方”を実現させる。

昨年度は北側敷地の整備計画を進めていたが、名古屋市住宅都市局との調整が難航しているため実現していない。就労事業の活性化や地域との繋がり強化など、緑風拠点の発展に欠かせない事業であるため、早期の解決を図り整備を進める。

## Ⅵ. 戸田川グリーンヴィレッジ 拠点

施設開設後5年目に入る。第2期3ヶ年計画の初年度で報酬改定の年でもある。地域拠点として地域住民も参加しやすい施設運営を目指し、実習生受け入れや地域向け講座の企画実施、地域ニーズに沿った新サービスの在り方を検討していく。通所生活介護「木の香」の利用者増と既存事業の安定、新たな加算の取得、消耗品や光熱水費などの経費節約にも心掛けていく。

より質の高いサービス提供と、真の利用者ニーズをとらえた個別支援計画を作成実施できる職員育成に尽力することで利用者満足を高めていく。平成28年4月の障害者差別解消法施行を前に事業者向けの対応指針(ガイドライン)が夏ごろには示される。人権委員会では虐待防止と他者理解、合理的配慮についての周知と実践に寄与し、同僚性の高い協力し合える組織を醸成していく。

#### Ⅶ. 名古屋盲人情報文化センター 拠点

視覚障害者情報提供施設として、障害者権利条約の批准に伴い施行される障害者差別解消法等を踏まえた支援を行っていく。諸団体との連絡を密に行い、質の高い利用者支援に努める。

#### Ⅷ. 瀬古マザー園 拠点

マザー園を取り巻く経営環境が年々厳しさを増すなかで、今回3年に1度の介護報酬改定がなされ、全体で2.27%減という極めて厳しい改定率が国より提示された。

我々介護施設においては過酷とも言える水準であり、この難局を乗り切るためには経営基盤の立て直しが急務となって

- いる。したがって、各事業における加算取得など収入増加への
- 取り組みを一層推進するとともに、各事業の合理化や職員体制の見直しなどにより経営体質を改善し、強化を図っていく。
- 人材育成については引き続き全国老協協主催の介護力向上講習会への参加を予定しており、こうした取り組みを通じて
- 職員の介護力の底上げを図りつつ、中重度者や認知症の利用者の受入体制を整えるとともに、職員に対しても意識啓発を行っていく。
- 施設整備面では、大規模工事の予定はないが老朽化が進んでいる受水槽、電源設備、エレベーターなど、取替工事の実
- 施時期や工事の手法等について検討し、準備を進めていく。

## 社会福祉法人名古屋ライトハウス 法人合計資金収支予算書(当初予算)

(自)平成27年 4月 1日(至)平成28年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	備考	
事業活動による収支	収入					
	介護保険事業収入	353,980,000	361,445,000	△ 7,465,000		
	老人福祉事業収入	172,147,000	172,395,000	△ 248,000		
	就労支援事業収入	752,445,000	717,102,000	35,343,000		
	障害福祉サービス等事業収入	1,503,953,000	1,498,997,000	4,956,000		
	視覚障害者情報提供事業収入	165,407,000	172,466,000	△ 7,059,000		
	借入金利息補助金収入	5,049,000	5,954,000	△ 905,000		
	経常経費寄附金収入	1,277,000	2,525,000	△ 1,248,000		
	受取利息配当金収入	6,193,000	16,024,000	△ 9,831,000		
	その他の収入	12,957,000	29,557,500	△ 16,600,500		
	事業活動収入計(1)	2,973,408,000	2,976,465,500	△ 3,057,500		
支出	人件費支出	1,569,034,000	1,542,764,800	26,269,200		
	事業費支出	332,120,000	326,701,500	5,418,500		
	事務費支出	175,951,000	190,163,000	△ 14,212,000		
	就労支援事業支出	725,376,000	703,875,000	21,501,000		
	支払利息支出	6,823,000	7,834,000	△ 1,011,000		
	その他の支出	7,876,000	7,545,500	330,500		
		事業活動支出計(2)	2,817,180,000	2,778,883,800	38,296,200	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	156,228,000	197,581,700	△ 41,353,700		
施設整備等による収支	収入					
	施設整備等補助金収入	19,230,000	22,254,000	△ 3,024,000		
	固定資産売却収入		1,230,000	△ 1,230,000		
		施設整備等収入計(4)	19,230,000	23,484,000	△ 4,254,000	
	支出					
設備資金借入金元金償還支出	31,126,000	38,126,000	△ 7,000,000			
固定資産取得支出	44,515,000	49,399,000	△ 4,884,000			
	施設整備等支出計(5)	75,641,000	87,525,000	△ 11,884,000		
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 56,411,000	△ 64,041,000	7,630,000		
その他の活動による収支	収入					
	投資有価証券売却収入		249,725,000	△ 249,725,000		
	積立資産取崩収入	3,100,000	41,191,000	△ 38,091,000		
		その他の活動収入計(7)	3,100,000	290,916,000	△ 287,816,000	
	支出					
	長期運営資金借入金元金償還支出		10,000,000	△ 10,000,000		
	投資有価証券取得支出		793,152,385	△ 793,152,385		
積立資産支出	15,803,000	157,379,010	△ 141,576,010			
	その他の活動支出計(8)	15,803,000	960,531,395	△ 944,728,395		
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 12,703,000	△ 669,615,395	656,912,395		
	予備費支出(10)		0	0		
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	87,114,000	△ 536,074,695	623,188,695		
前期末支払資金残高(12)		1,323,869,400	1,859,944,095	△ 536,074,695		
当期末支払資金残高(11)+(12)		1,410,983,400	1,323,869,400	87,114,000		

# 光 和 寮

## 光和寮レクリエーション「ゴジラ鑑賞会」

光和寮では利用者さんに余暇活動を楽しんでいただけるようレクリエーションを行っています。これまでカラオケ、焼き芋、アイスビンゴなどさまざまなレクリエーションを行ってきました。今年度は3回を予定しており、第1回の5月23日(土)は映画鑑賞会を行いました。

天気の良い初夏の午後、半日の就労を終えた22名の利用者さんが鑑賞された映画は「GODZILLA (2014)」。

渡辺謙さんも出演されたハリウッド版のゴジラということで昨年、日本でも話題になりました。ベッドシートを大きく広げたスクリーン、ちょっとひんやりとした薄暗い空間、キャラメルポップコーンとジュース、聞いているだけでわくわくしてしまう映画の予告映像…デイ棟4階の愛光館は小さな映画館になりました。

13時、わいわいと楽しい会話が飛び交っていた会場もはじめの挨拶が終わるとしんと静まり、いよいよ上映開始。視覚障がいの方にも楽しんでいただけるよう「音声ガイド」付きで、細かな描写もわかりやすく解説。迫力満点のゴジラの鳴き声や派手な爆発音の演出はもちろん、ストーリーの奥深さまでしっかりと感じていただけたと思います。



124分という長い上映時間でしたが、真剣な表情で鑑賞されている方など、利用者さんはそれぞれの時間を過ごされました。映画も終わり、皆様どんな感想を持ち合わせているのだろうとドキドキしていたら、「音声ガイドがあったので場面がわかりやすくて良かった。ないとただのゴジラの鳴き声と爆発音だけだったから楽しめた。」との利用者さんの一言にほっとしました。映画の感想はさまざまですが、レクリエーションに参加し、心身共にリフレッシュしていただけたのなら光栄です。

次回の光和寮レクリエーションも皆様楽しんでいただけるよう、各部署の職員が企画を頑張りますので、どうぞお楽しみに。



# 明 和 寮

## ぷちとまとレク、デンパークへ

今年8年目を迎えた生活介護ぷちとまと。恒例、春の外出レクリエーションで5月に安城産業文化公園デンパークへ行ってきました。出発前はあいにくの空模様。ハラハラしましたが日頃の行いが良かったせいか(?)到着した頃には雨が上がり、明和寮に帰るまで傘をささことなく過ごすことができました。

色とりどりの花があふれる園内で、まずはソーセージ作り体験を楽しみました。ほとんどの方が初めての経験だったため、形が不揃いだったり、破れたりと悪戦苦闘しながらも何とか完成させ、出来立てを試食しました。見た目は…。でも、味



は一級品!ほおぼった顔に思わず笑顔がこぼれました。それぞれ散策や昼食も楽しみデンパークを後にしました。刈谷ハイウェイオアシスではお待ちかねの買物タイム!両手いっぱいのお土産と思い出を抱えて、帰途に着きました。

今後も、利用者さんに喜んで参加していただけるレクリエーションや行事を企画していきます。



## “金山総合駅” 即売会

障がい者の自立支援を推進するために作業の斡旋などさまざまな取り組みを行っている愛知県セルフセンターでは、毎月金山総合駅コンコースにて即売会を開催しております。その管理業務を名古屋ライトハウスとして委託を受け、明和寮ビーサポートも積極的に取り組んでおります。

現在では、30を超える愛知県内の障がい者施設の方々に参加していただき、縫製用品からさまざまな種類の石鹸、かわいい木工製品やキーホルダー、クッキーや団子、あられやパンまで数多くの商品を取り揃えております。

毎回、お子さまからご年配の方々、最近では外国の方々まで、幅広いお客様が立ち寄ってくださいます。時期によっては暑かったり、寒かっ

たりと大変ですが、毎月のように来てくださるお客様もいらして「がんばって!」と声をかけられると、とても励みになります。みなさまもぜひお越しください。(開催期間などお問い合わせはビーサポート飯干まで)



# 港ワークキャンパス

なんちゃって集団・誕生!!



あのときから構想が始まった・・・  
地域への社会貢献を目指して、5人の男たちが立ち上がった  
その名は、チームサンキュー !!



Minato Work Campus Minato Work Campus Minato Work Campus  
work Campus Minato Work Campus Minato Work Campus



たくさんの笑顔を求めて



ある日、その5名の心は癒された。  
それは日頃の仕事の忙しさから解放された、その一瞬に起きた出来事であった。  
メンバーは誓い合った。  
「大切なことは、ありがとうからはじまり、  
ありがとうで終わる事なんだ」と。



TEAMサンキュー  
あおなみ線美化貢献活動♪



workの熱い取り組み  
港ワークキャンパス



参加企業80社



チャレンジOne～異業種との交流サイト運営

福祉が起点となり企業と企業、企業と福祉などが  
結ばれてひとつ(One)に繋がっていくことを目的としています。

港ワークキャンパスを「核」とし、多くの企業に登録を頂くことで、商売に限らない  
さまざまな情報を交換します。  
想定を超える企業間の利益に繋がることから福祉への理解を訴求します。

# 緑 風

## 東山動植物園 “花いっぱいプロジェクト”

東山動植物園再生プランの一環として名古屋市が推進している「花いっぱいプロジェクト」に、緑風も、昨年11月から参加しています。花植えから始まり現在に至るまで約半年の中で、他事業所と交代で定期的に除草活動を行ってきました。

今後は、植物園だけでなく、動物園の花壇にまで範囲を拡大して活動を行う予定です。地域貢献、外部（他施設や一般企業）とのつながり、また園芸福祉の観点などから、大変意義のある活動と位置付け、今後も積極的に関わっていきます。



東山動植物園のマスコット「ズーボ」くんと



花苗の定植



除草活動

## 日帰り旅行

今年は、5月22日に伊賀の里モクモク手づくりファーム（三重県伊賀）へ行きました。手作りウィンナー体験では、お肉をこねる所から行い、絞りだしの難しさに苦労しましたが、とても楽しいひと時を過ごすことができました。



初年度はリフト付きバス1台での旅行でしたが、徐々に利用者も増え、新年度からは若手利用者も加わり、今回はリフト付きバスと大型バスの2台となりました。

来年は、3台になるかも…！？

# 戸田川グリーンヴィレッジ

## 委員会活動 人権委員会「良いところカード」

人権意識向上と職員誰しもが起こしうる不適切な事象を未然に防ぎ、互いの違いを認め成長し合える組織を目指し、平成26年2月から人権委員会を立ち上げ、人権アンケートの実施、ありがとうカードなど様々な取り組みを行ってきました。

今年はある職員の意見から「職員が互いのいい所を書き合い、全員が書き終わったら本人に手渡し、申し送りで本人から感想を話してもらおう」という「良いところカード」の取り組みを続けています。受け取った職員の感想は「予想以上にいいコメントが多くて人の良い所を書いているうちに自分もポジティブになっていった。素直にうれしかった。」「笑顔とか接しやすいとか多く書いてあった。意識していなかったけど笑ってたんだ。」

「自分が思っている自分と違う自分に気付かせてもらった。励みにしたい。」「うれしくて自然と笑みがこぼれた。『尊敬する上司に言われた見ていないようで誰かは見ている』という言葉思い出した。」

人権委員会では相手の良いところに着目できるようになり、職員間の同僚性向上に貢献でき始めていると考察しています。

人権委員会より



## 日帰り旅行企画 愛知牧場

「もっと時間をかけて、仲間と一緒に、普段関わりの少ない職員さんとも外出がしたい」との利用者の声に、日ごろ実施している外出より規模の大きい企画を準備してきました。昨年度は試行を実施、今年度より日帰り旅行企画として開始することとなり、その第1弾として愛知牧場へ出かけてきました。

爽やかな天候に恵まれた5月の末、利用者3名と職員5名の計8名でバーベキューの食材や資材を積み込み車両2台で向かいました。

出発前は緊張気味の利用者さんも、昼食のバーベキュー・小動物に触れ合うことでにっこりと笑顔が見られるようになってきました。

バーベキューでは、普段とは違う雰囲気食欲も増したのか、職員が見守る中美味しそうに召し上がる姿がとても微笑ましかったです。

食後はポニーやヤギなどの動物を見て回りました。中でもウサギがニンジンを食べる姿を間近に見て優しくほほえみかけている姿が印象的でした。

施設では味わえない環境の中で喜ばれている姿がたくさん見受けられたことが、利用者との交流を通じて職員にも明日への糧になっていくのだと改めて感じた日帰り旅行でした。



# 名古屋盲人情報文化センター

## ○ ボランティアの集い2015

4月16日(木)、北区の名古屋市総合社会福祉会館で毎年恒例の「ボランティアの集い2015」を開催し、センターで活動していただくボランティアのうち200名余りが一堂に会しました。

午前中の全体会では、視覚を使わない人々の生活の知恵と本音を具体例を挙げて探るシンポジウム「点訳・音訳から触換・聴換へ」の第4弾を開催。「情報は命」をテーマに掲げ、当事者職員4名がパネリストとなり、日頃の経験を元に「情報」にまつわるエピソードを披露したり、それに関連した寸劇を交え「私たちにとって、次の一步に繋がる情報こそが命なのだ」という訴えに、皆熱心に耳を傾けていました。

当日は多年に亘る活動に対するボランティアへの表彰や、ボランティアで組織する「情文ともの会」の総会、さらに点訳・音訳・貸出し・プリントモニター・点字表示・サービス事業部の各分科会で、それぞれの課題について討議が行われました。



## ○ 第12回用具展

5月17日(日)、「第12回用具展」を開催しました。当日は天候にも恵まれ、約250名の来場者を数えました。

今回のテーマは「触の祭典～日常がサワルとカワル～」。特別企画として名古屋ボストン美術館と南山大学人類学博物館が出張展示し、めったに触ることのできない日本画の道具や古代の発掘資料に触れながら、学芸員の解説をマンツーマンで受けるという内容は、大変好評をいただきました。また、浮き出るピンを触りながら、点字で読書やメモができる最新の点字ディスプレイへの関心が高く、ブースの前には常に列ができていました。その他、当事者職員が日頃の愛用品を紹介するコーナーでは、視覚に頼らなくても使いやすいコーヒーメーカーや傘・白杖立てなど、センターならではの展示に注目が集まりました。そしてロビーでは、近くのインド料理屋による本格カレーの販売が行われ、会場内は一日中食欲をそそるスパイシーな香りに包まれていました。



# 瀬古マザー園

## ○ 瀬古マザー園 開設26周年記念イベント

瀬古マザー園は、平成27年5月12日(火)で、開設から27年目を迎えることができました。当日は開設記念イベントを行ない、利用者の皆さんとともに記念日を祝いました。

瀬古第一マザー園では、マザー園開設に関するエピソードを紹介した後、職員による出し物（モノマネや歌）や利用者の皆さんと職員がマザー園の歌を合唱するなど、開設記念を祝いました。職員の出し物では、若手芸人並みに職員が体をはってゴムパッチンを受けたり、「布施明」に扮した職員が、「君は薔薇より美しい」を大熱唱するなど、利用者・職員とも大変盛り上がりました。



瀬古第二マザー園では、利用者の皆さんが暮らすマザー園のことをクイズ形式で問題を出すイベントを行いました。マザー園の名前の由来は、母の日にちなんでつけられたのではなくニューヨークライトハウスを設立したマザー夫人であることを伝えると、「知っている」という声も多くある一方で「えっ—そうなの？」と驚かれる方も。また「マザー園ができる前にあった建物は？」の問題に、すぐに「紡績工場！」と声を合わせて答えてくださり、職員が驚く場面もありました。



このようにマザー園開設記念を迎えられたのも、利用者の皆さん、家族、ボランティア、地域の皆様をはじめ、マザー園に関わる多くの方々のご理解、ご協力の賜物だと思えます。これからも利用者の皆さんが園での生活を楽しんでいただけるよう、職員一同でサービス向上を図ってまいります。



## ○ 介護保険制度が平成27年4月より改正されました。

今回の制度改正では介護報酬がマイナス改定となり、マザー園を取巻く環境も厳しさを増しています。引き続き利用者の皆さんの安心・安全な生活を確保できるよう各事業のサービスや事業運営の適正化を進め、安定した事業運営に努めていきます。

利用者 主な変更点 に関連する	施行時期	改正のポイント
	2015年4月	所得が低い高齢者の保険料減免を拡充
		特別養護老人ホームへの新規入居を原則「要介護3」以上に限る
	2015年4月から段階的	「要支援」の通所・訪問介護サービスを市町村に移す
2015年8月	一定の所得がある人の自己負担割合を1割から2割に上げる	
	施設入居者向けの食費・部屋代補助を縮少	